

倉田 悟 ヒロハミヤマノコギリシダ北上す

S. KURATA : *Diplazium Petri* in Kyûshû proper and Honshû.

従来屋久島が北限産地と考えられていたヒロハミヤマノコギリシダは、更に北上して薩摩と紀州に産することが判明した。採集は前者が1961年3月、後者が1962年の3月である。しかし、この両採品については同定に相当迷った挙句、ようやく本種に落着いたのである。始め山中鉄次氏は、薩摩鶴田村五里国有林の標本をイサワラビではなかろうかとして送つて来られた。即ちこの山中氏発見のものは、小羽片（または裂片）の最上前側の側脈に付くソーラスが、他のソーラスより長くてしかも背中合わせに付く場合が多く、ヒロハミヤマノコギリシダの尋常形からずれている。ただしイサワラビとは山中氏も注意されたごとく一般に葉柄が長く、また羽軸裏面に短腺毛を生じない点で異なっている。紀州北牟婁郡海山町木津のものは一群落あつて、葉身が長く披針形で葉質がやや薄いので多少不安であつた。そこで屋久島産の多数の標本と比較するとともに、1961年末には屋久島にてヒロハミヤマノコギリシダの変異を良く観察したので、薩摩・紀伊両採品ともに本羊歯に含めて大過なしとの結論を得た。紀州の自生地は通称尾鷲の地域内であり、同採集行の際樋口雄一氏が寶田にて発見されたサツマシダと共に、尾鷲のシダフロラにまたもや2大珍品を加え得た訳である。薩摩の自生地は鶴田ダムの完成による水没が間近く、まことに残念である。